



「医療系学部連携チームによる地域参加型学習」がスタートしました

平成21年度GP大学教育推進プログラム「医療系学部連携チームによる地域参加型学習」が始動しました。これは医・薬・看護学部の学生チームが、地域の人々とのふれあいを通じて各地域のニーズの抽出と「学生なればこそできる」課題の解決に取り組む企画です。昨年11月5日に協力を頂く地域の病院に対する説明会を、また12月12日には各地域の地域参加型学習協力委員33名と医・薬・看護学部1年生の代表60名によるキックオフシンポジウムを開催し、地域毎のグループに分かれて活動計画を話し合いました。プログラムの運営のために、医・薬・看護学部教員による医療系学部連携教育委員会(Allied Medical Education Committee, AMEC)が毎週水曜朝に会合を持ち、また病院外来棟4階に設置した地域参加型学習支援センターが学生の地域活動をサポートしています。現在、医・薬・看護学部1年生24チームが、名古屋、尾張、知多、東三河、足助、上矢作、三重県北勢地区の協力病院診療圏と豊根村、篠島、日間賀島、そして大学周辺の学区連絡協議会、桜山および瑞穂通商店街振興会、小・中・高等学校、社会福祉協議会、精神保健福祉センターで調査活動を行っています。学生たちの関心は地域医療や福祉ばかりでなく、背後にある地域の歴史や文化、産業にも広がり、また学生の参加によって地域の人々の間に新しいコミュニケーションが生まれつつあります。この企画は、H22年度から医・薬・看護学部の正規教養教育カリキュラムとなり、現在の1年生が新1年生チームを支援します。HPも開設しましたのでご覧ください。【<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/amec/>】

医療系学部連携教育委員会(早野 順一郎、浅井 清文、木村 和哲、大原 弘隆、飯塚 成志、鈴木 匡、前田 徹、明石 恵子)